

2010年12月16日

各位

JFE 鋼板株式会社

ハイデッキの事業体制の見直しと新商品について

ハイデッキを取り巻く事業環境が非常に厳しいため、当社は主力商品のひとつである『ハイデッキ75』について、収益性の向上が見込めないため撤退することとしました。今後は、商品の優位性を持つ『ハイデッキ100』と今回開発した新商品『ハイデッキ100L』*を加えた100シリーズでハイデッキ事業を継続してまいります。

この決定により、当社の生産体制は、東日本製造所（千葉）がハイデッキ75とハイデッキ100の2基体制でしたが、ハイデッキ75の生産を本年12月に中止し、『ハイデッキ100』シリーズの1基体制といたします。玉島製造所はハイデッキ75の1基体制をとっておりましたが、来年5月末に生産を中止する予定にしており、設備はJFE 建材㈱に売却いたします。

従来の床型枠用鋼製デッキプレート（一般名称；フラットデッキ）は、リブの高さが75mmの商品（当社商品名；ハイデッキ75）でしたが、当社は、リブ高を100mmにすることにより、従来品に比べて曲げ剛性が高く、板厚を1～2割薄くすることで単位面積あたり重量を削減できる『ハイデッキ100』を開発し、拡販に努めてまいりました。『ハイデッキ100』は、幅方向の剛性を保持するため板厚を0.8mm以上とし、ハイデッキ75の1.2mm以上を置き換えてきました。

今回当社は、幅方向の剛性を高めるエンボス改良を行ない、板厚0.8/1.0mmのハイデッキ75に対しても、長さ方向・幅方向とも曲げ剛性が同等以上で、かつ重量を削減できる板厚0.6mmの『ハイデッキ100L』を開発することに成功しました。

『ハイデッキ100L』は、重量削減メリット（ハイデッキ75に対し1割以上）だけではなく、軽量化により現場でのハンドリング負荷が軽減されます。働き幅が狭くなり敷き込み手間は増えますが、板厚が薄くなることにより溶接能率が上がり、従来以上の施工性が確保でき、お客様に価格メリットを提供できます。当社の社内テストでは、敷き込み手間が約5%増える一方で、溶接能率・ハンドリング効率が約8%改善し、トータルで3%程度の施工効率が上がるという結果が得られております（1工区約200㎡の施工を前提）。

すでに10月に試作を行ない、お客様立会いのもと施工実験も実施し、品質・施工性とも好評を得ており、現時点で10数件のご注文をいただいております。

今後は、新商品『ハイデッキ100L』を加えた『ハイデッキ100』シリーズのさらなる普及・拡大を進めてまいります。

*『ハイデッキ100L』は現在特許出願中です。

問い合わせ先 JFE 鋼板㈱ 総務部 松本（03-3493-1326）
建設建材営業部 横山（03-3493-1576）

以上